

法徳寺だより

今年は、京都の西本願寺において、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が行われており、法徳寺からは11月10日～11日に50名で団体参拝へ行つて参りました。大変な広さの西本願寺御影堂の会場は、なぜか最前列！の席で、御門主様、新門様をまじかに拝見し、大変素晴らしい法要に感激しました。二日間かけて親鸞聖人ゆかりの地、大谷本願寺、青蓮院、知恩院、吉水草庵、六角堂などを巡りました。夜の宴会では、舞妓さんが登場し、盛り上がりました。参加者からは、感動、感激、感謝、本当に参加して良かった！との感想を頂きました。



浄土真宗西本願寺 御門主さま



親鸞聖人墓所 大谷本願



西本願寺にて集合写真



知恩院にて



役員さんと舞妓さん

第102号 発行
浄土真宗本願寺派
法徳寺
厚木市岡田5-4-12
TEL 046-228-3962
住職 伊東英幸
校正 伊東英俊
編集 伊東祐子

新年法要のご案内

平成24年1月2日(月)

第1回 午前10時～

第2回 午前11時30分～

第3回 午後1時～

各回、30分位。

ご都合のよい回にお参りください

毎年、お正月には、新年法要をお勤めしております。一年の始まりを、すがすがしい思いで「阿彌陀如来」の御前で、お参り致しますよう。浄土真宗の初詣は、お寺に参り阿彌陀如来の救いに、感謝致します。

《法要に持参する物》
過去帳・位牌
お供え用紙
お経の本(お持ちの方)
お念珠

前任職より
住職の職を長男と交代いたしました。ほとんど以前と同じ生活をしていきます。難聴はひどくなり始めましたが元気で。冬瓜を作り始めて2年目、20キロ級の大物が沢山採れました。ジャポソ南瓜は失敗でした。どなたかご指南戴けませんか。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。



前任職 伊東英俊

2012年(平成24年)

平成23年度は、大震災があり、多くの人が辛く悲しい思いを致しましたが、人と人との「絆」を感じた一年でもありました。また、浄土真宗では、50年に一度の親鸞聖人の七百五十回大遠忌が行われ、京都や、東京で、親鸞聖人展が開催され、多くの人が訪れました。
法徳寺では、この記念すべき年に住職継職を終え、気持ちも新たに、これからもおつとめに励んで参ります。
来年度もどうぞ宜しくお願い致します。



住職 伊東英幸



法徳寺分院 立誓寺 毛利祥生



善林寺八千代聖苑住持 伊東英幸



法徳寺 僧侶 杉浦俊春

平成23年12月より、法徳寺で
お手伝いしています。
宜しくお願いします。

年間行事予定	日	内容	時間
2月	2日(木)	ニコニコ法話会	午後1時半～3時
3月	2日(金)	ニコニコ法話会	午後1時半～3時
3月	21日(水)	春季彼岸会法要	時間未定
4月	2日(月)	ニコニコ法話会	午後1時半～3時
5月	2日(水)	降誕会・永代経法要	午後1時半～2時半
(5月ニコニコ法話会を兼ねております)			
6月	1日(金)	ニコニコ法話会	午後1時半～3時
7月	2日(月)	ニコニコ法話会	午後1時半～3時
8月	15日(水)	お盆法要	時間未定
8月	16日(木)	お盆法要	時間未定
(8月ニコニコ法話会を兼ねております)			
9月	3日(月)	ニコニコ法話会	午後1時半～3時
9月	24日(月)	秋季彼岸会法要	時間未定
10月	2日(火)	念仏奉仕ニコニコ法話会	午後1時半～3時
10月	9日(火)	報恩講準備・遠夜法要	午後5時～6時
10月	10日(水)	報恩講日中法要	午前11時
11月	2日(金)	ニコニコ法話会	午後1時半～3時
11月	13日(火)	築地本願寺団体参拝	
12月	3日(月)	ニコニコ法話会	午後1時半～3時

年末年始号 法話

法徳寺
住職 伊東英幸

先日、東京国立博物館で行われていた、法然と親鸞展に行つてまいりました。平日にもかかわらず、大変な賑わいに驚かされました。

親鸞聖人の師匠であります、法然上人は、出家してから、30年あまり、救いの道を求め続けていました。43歳のとき、運命的な考え方に会われたのです。善導大師の書かれた書物の中に、『一心に、専ら阿弥陀仏の名号を念じよ、歩いていても、座つていても、横になつていてもかまわない。時間や場所に関係なく、念仏をやめないこと。これは、阿弥陀仏自身が選んだ必ず、極楽浄土に行くことができる行いなのである』。南無とは、すべてをゆだねる、阿弥陀仏にお任せしますと称えることです。それは、阿弥陀仏自身が選んだ、極楽浄土に唯一救われる行いなのです。阿弥陀仏が極楽浄土を作られたのは、すべての者を救うためであります。すべての者を救いたいというのが、阿弥陀仏の元々の願い、本願であるならば、その阿弥陀仏にお任せすることこそ、もっとも適つた行であります。善導大師のお言葉に、法然上人の悩み

平成24年度 年回表

一周忌	平成23年	二十二回忌	平成2年
三回忌	平成22年	二十五回忌	昭和63年
七回忌	平成18年	二十七回忌	昭和61年
十三回忌	平成12年	三十三回忌	昭和55年
十七回忌	平成8年	五十回忌	昭和38年

仏事のご依頼は、土日集中しておりますので、お早めにお申し込み下さい。また、年回にあたっていない年でも、ご命日にはお参り致しますので、お気軽にお申し込み下さい。ホームページからEメールでも、お申し込み出来ます。

は晴れわたりました。人は皆、仏様の前では、いたらぬ存在であります。ならば、厳しい修行や寄進などをして自らの力で解脱を目指すよりも、「阿弥陀仏にお任せします」と称えることこそ、本来の救われる道です。念仏を称えることは、価値の低い行いとされてきたのが、その思想を逆転して、念仏こそ、もっとも価値のある行いであるとなりました。それは、当時の仏教界の常識を覆してしまつたものでした。

親鸞聖人は、その法然上人の教えを、受けられ、南無阿弥陀仏と称える念仏も、阿弥陀仏が、私に称えさせて頂いているのだとされたのです。南無阿弥陀仏とは、「阿弥陀さまお任せします」という意味であると先ほど申し上げましたが、親鸞聖人は、南無阿弥陀仏とは、「この阿弥陀に任せなさい」という、阿弥陀様からの私に向かつてのよびかけであると示されました。こんな譬えがあります。赤ちゃんが、「ママ」という言葉を発するようになるには、母親が自ら「ママですよ」と呼びかけ続けた結果です。それと同じように、今、私が、南無阿弥陀仏と称える身となつて居るのは、阿弥陀如来が、さまままなご縁を通じて、私に呼びかけ続けてくださった結果にほかなりません。つまり、私の称える南無阿弥陀仏は、阿弥陀如来さまの「この阿弥陀仏にまかせなさい」に対する「はい、お任せします」なのです。

平成24年度 護持金
3000円の納入のお祝い

今年も何卒、ご協力をお願い致します。ご納入頂いたお金は、『法徳寺だより』の発行・郵送だけでなく、お寺の護持発展、教化活動の為に使わせて頂いております。

今こうして、新聞を読んで下さつて居るのも、お経を称えるのも、念仏を称えるのも、全て阿弥陀様のおはたらきなのです。今、念仏を称える身にさせて頂いているのは、既に、救われていることに対する、「ありがとうございます」という意味になるのです。お浄土に救われることは、既に定まつているのです。阿弥陀如来様のお顔、姿をご覧に成つて下さい、そうすれば、安心できます、心配なという顔をされています。

それでも、私は、時々、心配になることがあります。本当に、私は救われるのであろうか、どうしたら、救われるのだろうか、もっと法話を聞けばなんとかなるだろうか？と思うことがあります。しかし、考えてみますと、明日生きていく保障はどこにもありません。私のいのちは、今、ここにしか存在しないのです。それならば、今、ここで救われなければ意味がないのです。阿弥陀様のみ教えを頂いてみると、阿弥陀様とは、どのような仏様であつたかと気付かされます。阿弥陀様とは、私の方から、お願いする必要のない仏様なのです。阿弥陀様の方から、「浄土へ生まれて下さい」と願いをかけて頂いているのです。私がお願ひするのではなく、願われている私なのです。阿弥陀如来は、私が、「お助け下さい」と頼んでからようやく救いに来てくれるような仏様ではありません。私が気付くもしなかつたときから、「この阿弥陀にまかせなさい、必ず救います」とよびかけて下さつていた、先回りの仏様です。

七三三おめでとう

法徳寺のみんな

先日、ある霊園にお参りさせて頂いた際、墓石に終着駅と刻んでありました。私たちの人生の終着駅は、死であります。親鸞聖人は、お浄土へ生まれていく人生であるとお示しにならないのです。人間は、常に考えなくてはならないのは、死を免れようとするのではなく、生きられるだけの時間を、どうしたら、最も、よく生きられるかということではないでしょうか。人は、この世で、いろいろな経験を積むために生まれてきたのです。亡き方は、「私は、自分の人生を自分なりに精一杯生きました、どうか、最後は、笑顔で見送ってほしいと願つてくださつて欲しいと思います」。

亡き方に対して、かわいそうだ、不幸だとは思わずに、今まで本当にご苦労様でした、ありがとうございます。人生のご卒業おめでとうございます、そして、お浄土へご入学おめでとうございますという気持ちでお参りさせて頂けるのが浄土真宗だと思ひます。

法徳寺合祀墓

法徳寺には、敷地内に永代合祀墓がございます。ご納骨をご希望の方は、お気軽にご相談下さい。詳しくはホームページをご覧ください。

